

オルガノ株式会社

2026年3月期 上期決算説明会資料

証券コード：6368

2025年11月4日

目 次

1. 2026年3月期 上期実績
2. 2026年3月期 通期見込
3. 当社の概要・事業のご紹介

※資料中の数値は表示単位以下切り捨て、パーセンテージ及び前期・計画比較等は表示単位で計算。またパーセンテージは小数点第二位を四捨五入

目 次

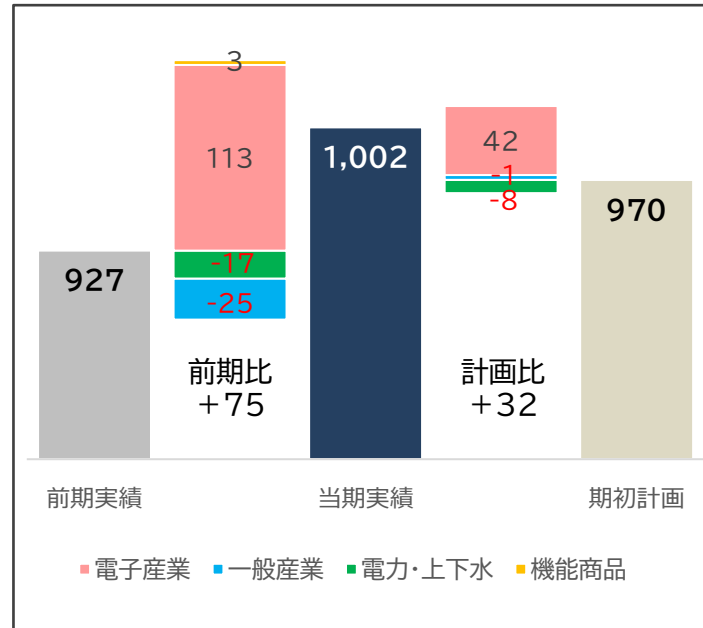
1. 2026年3月期 上期実績
2. 2026年3月期 通期見込
3. 当社の概要・事業のご紹介

※資料中の数値は表示単位以下切り捨て、パーセンテージ及び前期・計画比較等は表示単位で計算。またパーセンテージは小数点第二位を四捨五入

26.3期 上期実績：受注高・売上高・営業利益の概況

(単位：億円)

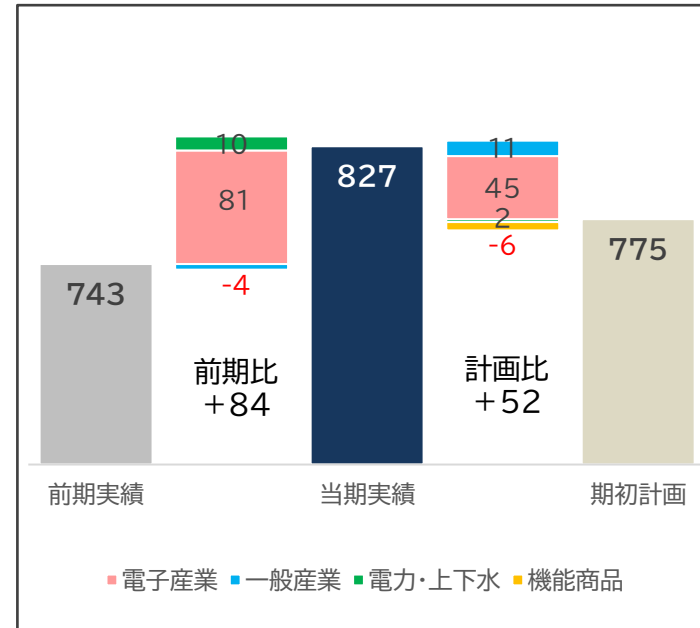
受注高分析



【受注高】

前期比では、米国・欧州など海外の半導体関連の大型案件受注が拡大、ソリューションも伸長。計画比では、電子産業分野で中国の案件が想定よりも受注時期が遅れている影響を台湾の案件でカバー。

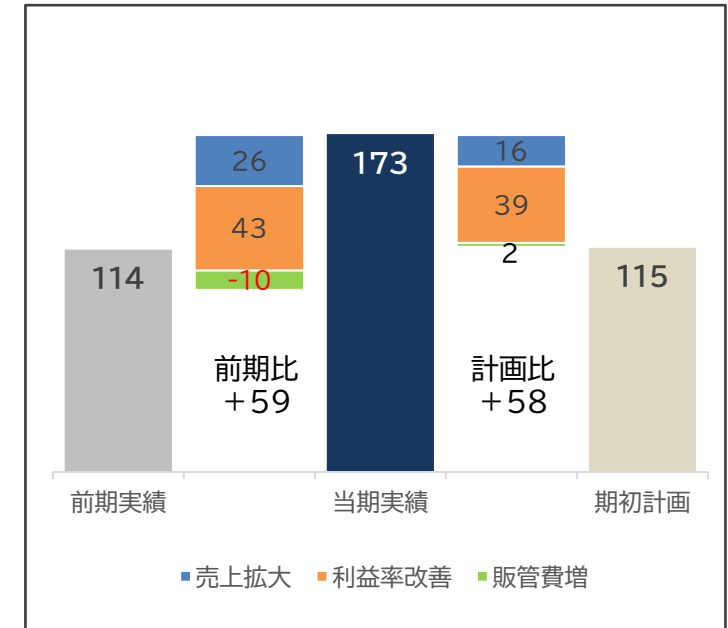
売上高分析



【売上高】

前期比では、電子産業分野において国内・台湾のプラント案件の工事が順調に進捗したほか、各分野のソリューションも順調に推移。計画比では、電子産業分野で海外のプラント案件が拡大。機能商品は食品で低採算取引の整理を進めた影響もあり若干の未達。

営業利益分析



【営業利益】

前期比では、売上拡大効果に加え、電子産業分野を中心にプラント案件の利益率改善。人件費など販管費の増加をカバー。計画比では、海外の大型プラント案件の利益率が想定以上に改善。

26.3期 上期実績：連結損益計算書

(単位：百万円)	25.3期 上期実績	26.3期 前期計画	26.3期 前回見込 (2025. 8. 4)	上期実績	前期比	期初 計画比	前回 見込比
受注高	92,755	97,000	101,500	100,281	7,526 8.1%	3,281 3.4%	-1,219 -1.2%
売上高	74,323	77,500	82,000	82,793	8,470 11.4%	5,293 6.8%	793 1.0%
売上総利益	23,143	24,500	27,800	30,125	6,982 30.2%	5,625 23.0%	2,325 8.4%
%	31.1%	31.6%	33.9%	36.4%	5.3pt	4.8pt	2.5pt
販管費	11,663	13,000	13,000	12,747	1,084 9.3%	-253 -1.9%	-253 -1.9%
営業利益	11,480	11,500	14,800	17,378	5,898 51.4%	5,878 51.1%	2,578 17.4%
%	15.4%	14.8%	18.0%	21.0%	5.6pt	6.2pt	3.0pt
親会社株主に帰属する 中間純利益	8,134	7,500	9,700	11,528	3,394 41.7%	4,028 53.7%	1,828 18.8%

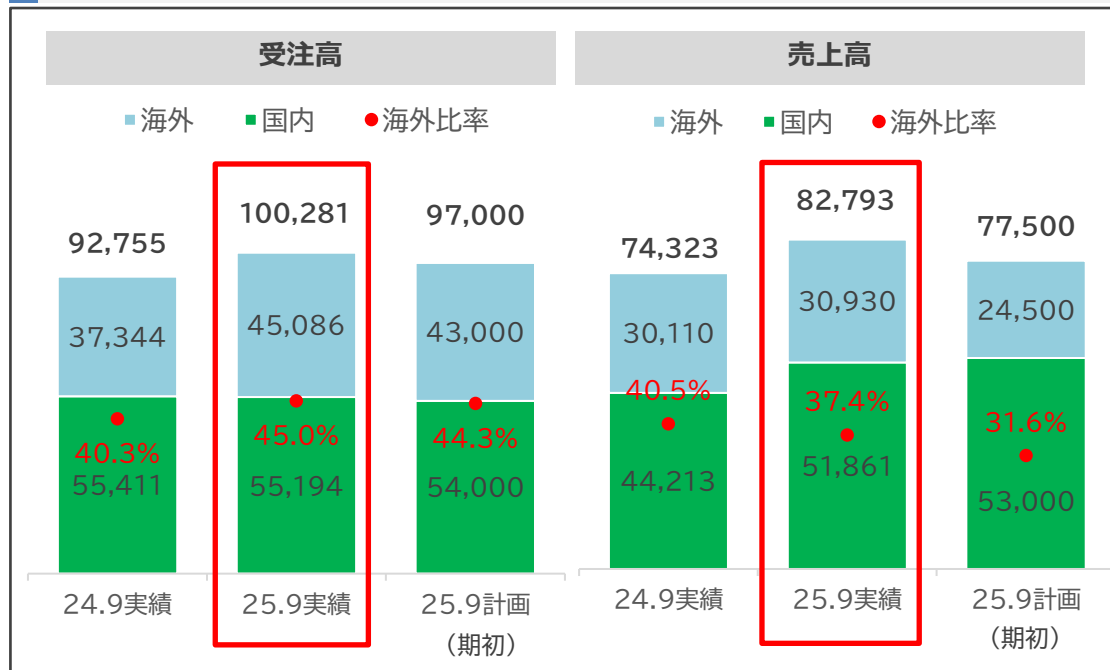
26.3期 上期実績：セグメント別実績

(単位：百万円)		25.3期 上期実績	26.3期 上期計画	26.3期 前回見込 (2025.8.4)	上期実績	前年 同期比	期初 計画比	前回 見込比
全社	受注高	92,755	97,000	101,500	100,281	7,526 8.1%	3,281 3.4%	-1,219 -1.2%
	売上高	74,323	77,500	82,000	82,793	8,470 11.4%	5,293 6.8%	793 1.0%
	営業利益	11,480	11,500	14,800	17,378	5,898 51.4%	5,878 51.1%	2,578 17.4%
	%	15.4%	14.8%	18.0%	21.0%	5.6pt	6.2pt	3.0pt
水 エ ン ジ	受注高	80,166	84,100	88,600	87,294	7,128 8.9%	3,194 3.8%	-1,306 -1.5%
	売上高	61,885	64,600	69,100	70,549	8,664 14.0%	5,949 9.2%	1,449 2.1%
	営業利益	9,802	9,550	12,850	15,771	5,969 60.9%	6,221 65.1%	2,921 22.7%
	%	15.8%	14.8%	18.6%	22.4%	6.6pt	7.6pt	3.8pt
機 能 商 品	受注高	12,589	12,900	12,900	12,987	398 3.2%	87 0.7%	87 0.7%
	売上高	12,437	12,900	12,900	12,243	-194 -1.6%	-657 -5.1%	-657 -5.1%
	営業利益	1,677	1,950	1,950	1,607	-70 -4.2%	-343 -17.6%	-343 -17.6%
	%	13.5%	15.1%	15.1%	13.1%	-0.4pt	-2.0pt	-2.0pt

26.3期 上期実績：地域別受注高・売上高

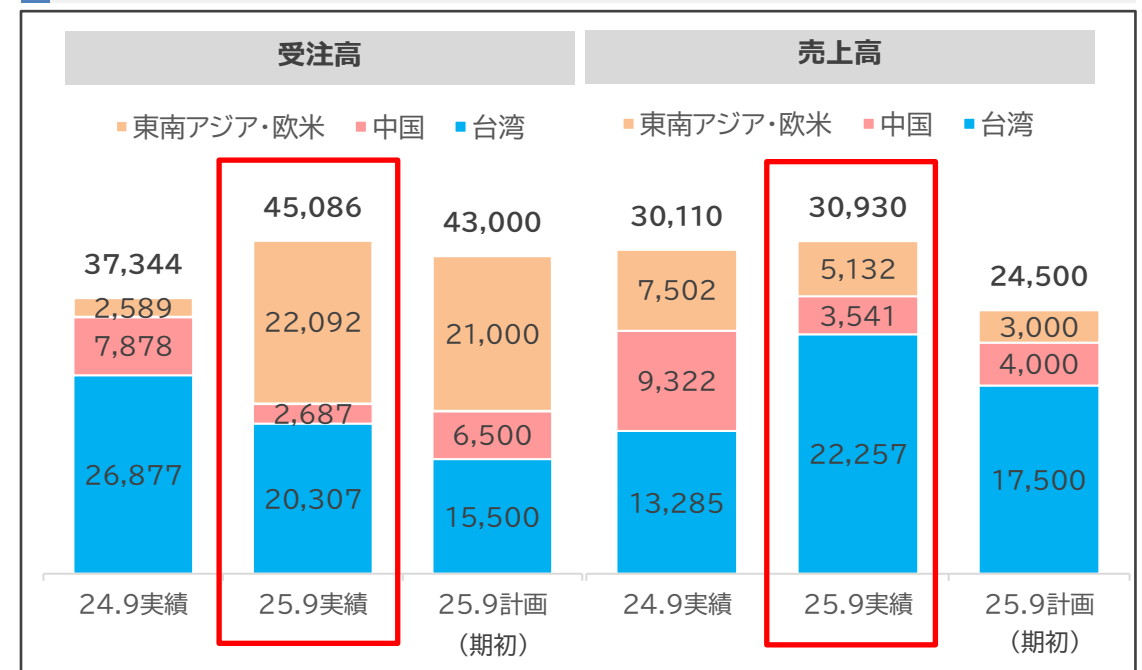
(単位：百万円)

地域別受注高・売上高



- 受注高は前期比では米国・欧州、計画比では台湾など海外で拡大。国内は前期比微減も、計画比は若干プラス。
- 売上高も前期比、計画比ともに大型案件の工事進捗など海外での伸長が寄与。国内はソリューションが好調。

海外地域別受注高・売上高

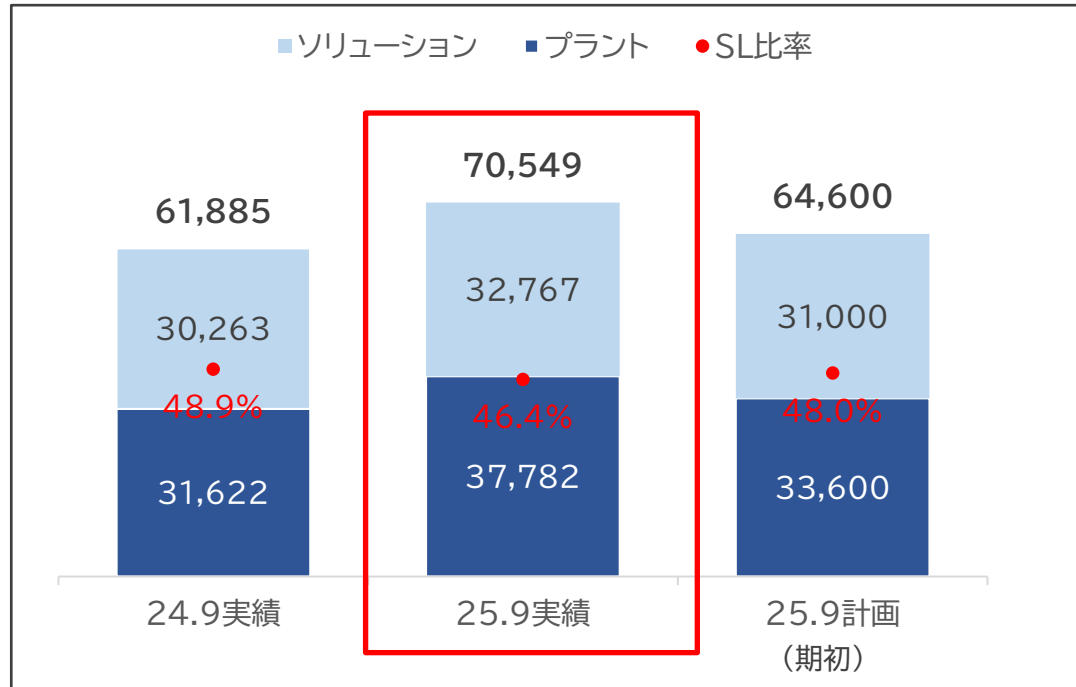


- 受注高は台湾・米国において最先端半導体向けの大型投資や、欧州の大型半導体プロジェクトを受注し大幅拡大。
- 売上高は台湾で受注したプラント案件の売上等により前期比・計画比で伸長。中国は受注時期が期初想定より遅れ減少。

26.3期 上期実績：事業セグメント別・部門別売上高

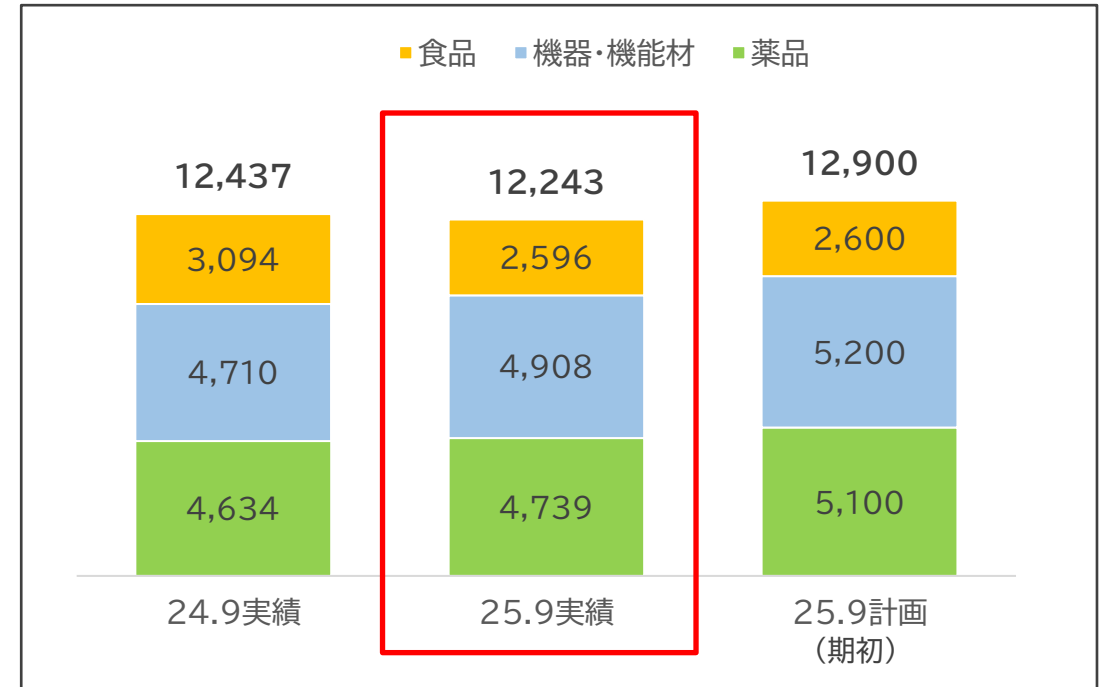
(単位：百万円)

水エンジ事業：部門別売上高



- プラントは好調な受注を背景に国内外ともに案件が増加、工事も順調に進捗しており高い水準の売上を継続。
- ソリューションは設備保有型サービスの伸長や、納入案件の増加に伴うメンテナンスや改造案件の拡大が寄与。

機能商品事業：部門別売上高

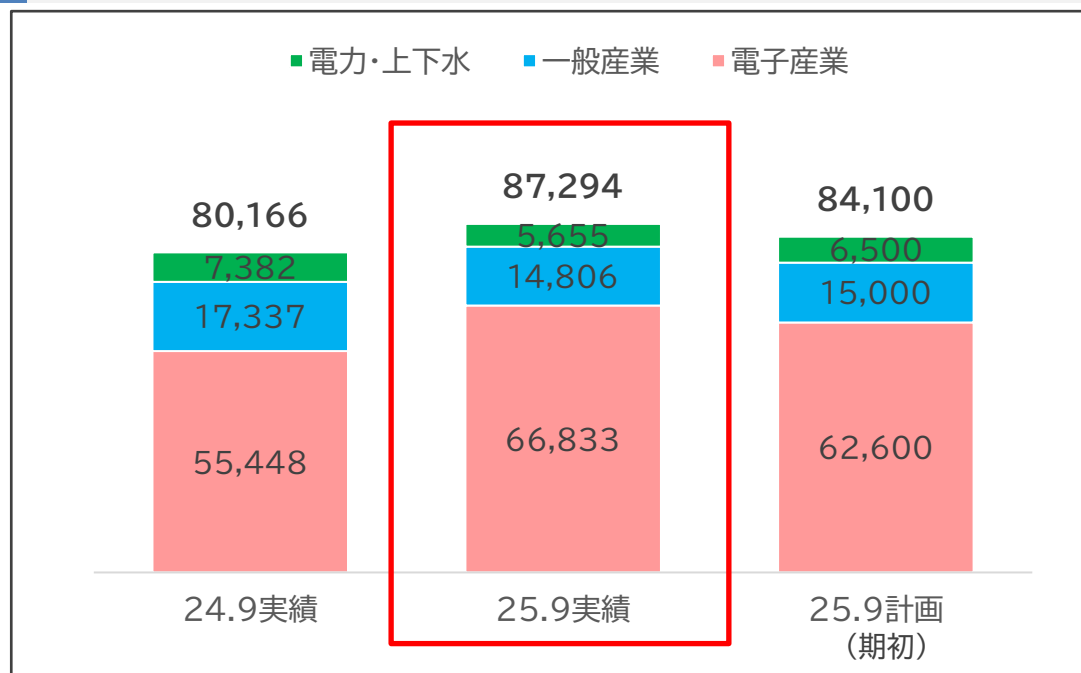


- 水処理薬品やフィルタ、機能材などの各分野で好調に推移。機器分野では小型純水・超純水製造装置の販売が伸長。食品分野は低採算取引の整理を進めている影響で売上減少。

26.3期 上期実績：市場別受注高・売上高（水エンジニアリング事業）

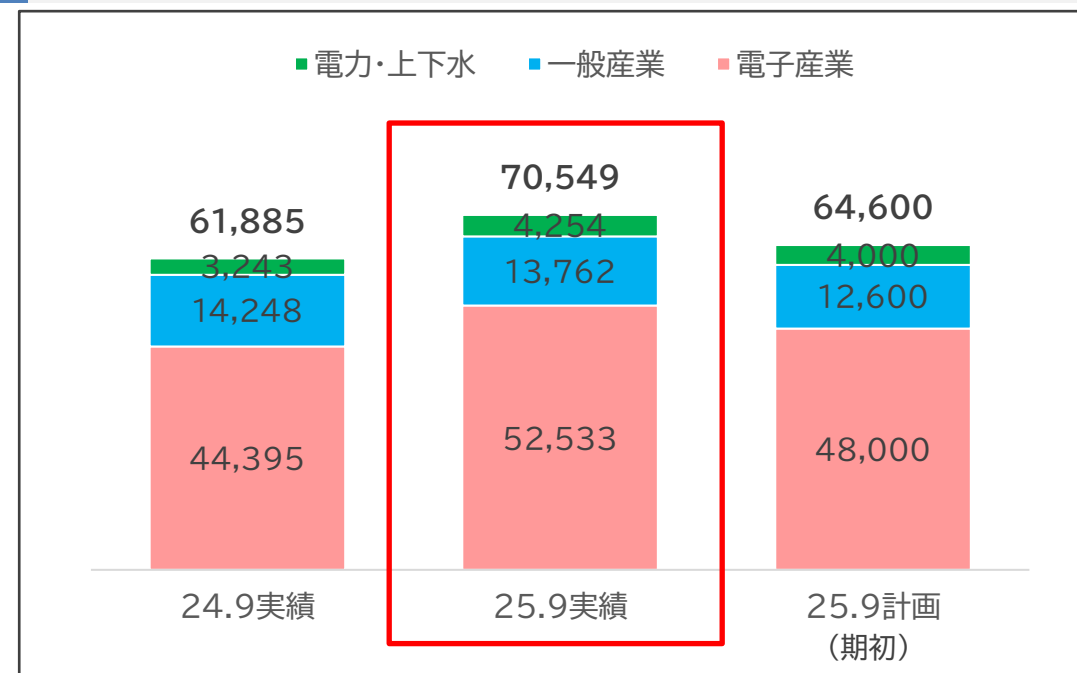
（単位：百万円）

市場別受注高（水エンジニアリング事業）



- 電子産業分野は米国や台湾での大型プロジェクト受注で拡大。国内では設備保有型サービス契約などソリューションが伸長。
- 一般産業分野は前期に大型案件を受注した反動で減少、ソリューションサービスは好調に推移。

市場別売上高（水エンジニアリング事業）



- 電子産業分野は国内外でのプラント案件の工事が進捗。国内・海外で納入案件拡大しソリューションも伸長。
- 一般産業分野は医薬・電子周辺などの分野を中心に、電力・上下水分野は原子力発電所向けソリューションなどが堅調。

目 次

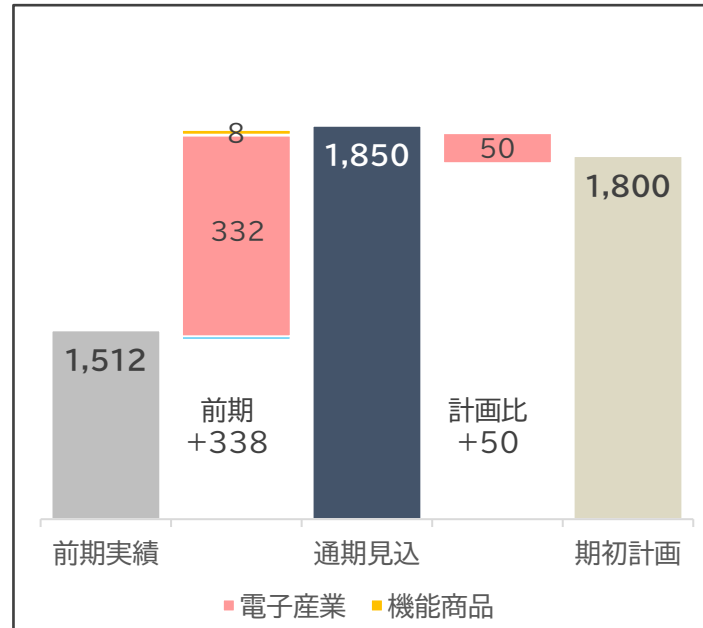
1. 2026年3月期 上期実績
2. 2026年3月期 通期見込
3. 当社の概要・事業のご紹介

※資料中の数値は表示単位以下切り捨て、パーセンテージ及び前期・計画比較等は表示単位で計算。またパーセンテージは小数点第二位を四捨五入

26.3期 通期見込：受注高・売上高・営業利益の概況

(単位：億円)

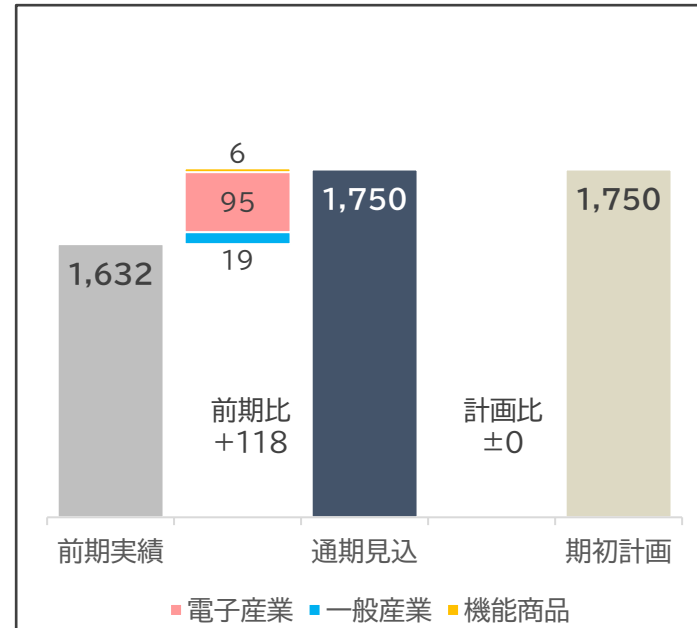
受注高分析



【受注高】

前期比では電子産業分野で台湾や米国・欧州など海外の大型案件受注が続き拡大。計画比ではソリューションが想定より好調に推移。一般産業分野・電力上下水・機能商品は堅調に推移。

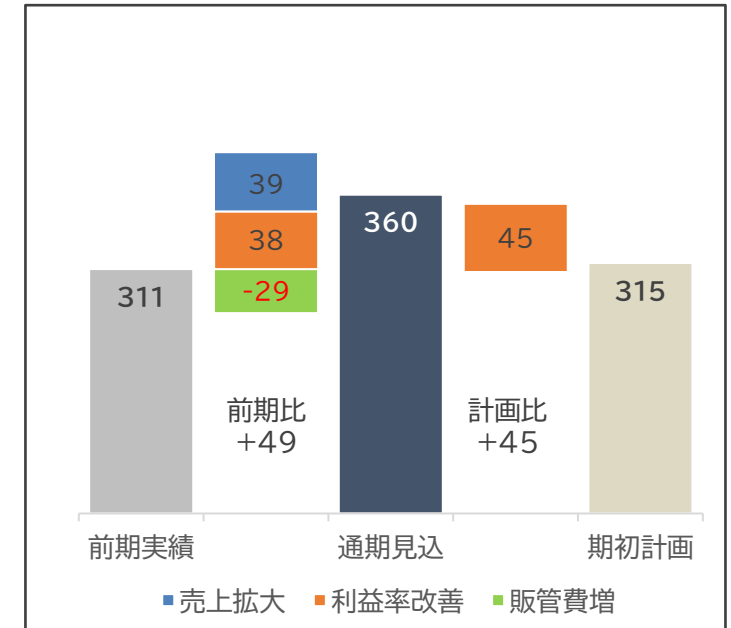
売上高分析



【売上高】

前期比では海外など中心に電子産業分野が伸長。一般産業も前期受注の大型案件など寄与し売上拡大、電力上下水・機能商品なども堅調な推移を想定。

営業利益分析



【営業利益】

前期比では電子産業分野の売上拡大やプラント案件の利益率改善効果を想定。計画比では海外などプラント案件の利益率が想定以上に改善していることを反映。販管費は期初計画並を想定。

26.3期 通期見込：連結損益計算書

(単位：百万円)	25.3期 通期実績	26.3期 期初計画	26.3期 前回見込 (2025. 8. 4)	26.3期 今回見込	前期比	期初 計画比	前回 見込比
受注高	151,272	180,000	180,000	185,000	33,728 22.3%	5,000 2.8%	5,000 2.8%
売上高	163,269	175,000	175,000	175,000	11,731 7.2%	- -	- -
売上総利益	55,182	58,500	61,000	63,000	7,818 14.2%	4,500 7.7%	2,000 3.3%
%	33.8%	33.4%	34.9%	36.0%	2.2pt	2.6pt	1.1pt
販管費	24,061	27,000	27,000	27,000	2,939 12.2%	- -	- -
営業利益	31,120	31,500	34,000	36,000	4,880 15.7%	4,500 14.3%	2,000 5.9%
%	19.1%	18.0%	19.4%	20.6%	1.5pt	2.6pt	1.2pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	24,150	24,200	26,100	27,000	2,850 11.8%	2,800 11.6%	900 3.4%
ROE	21.7%	18.8%	—	20.7%	-1.0pt	1.9pt	-

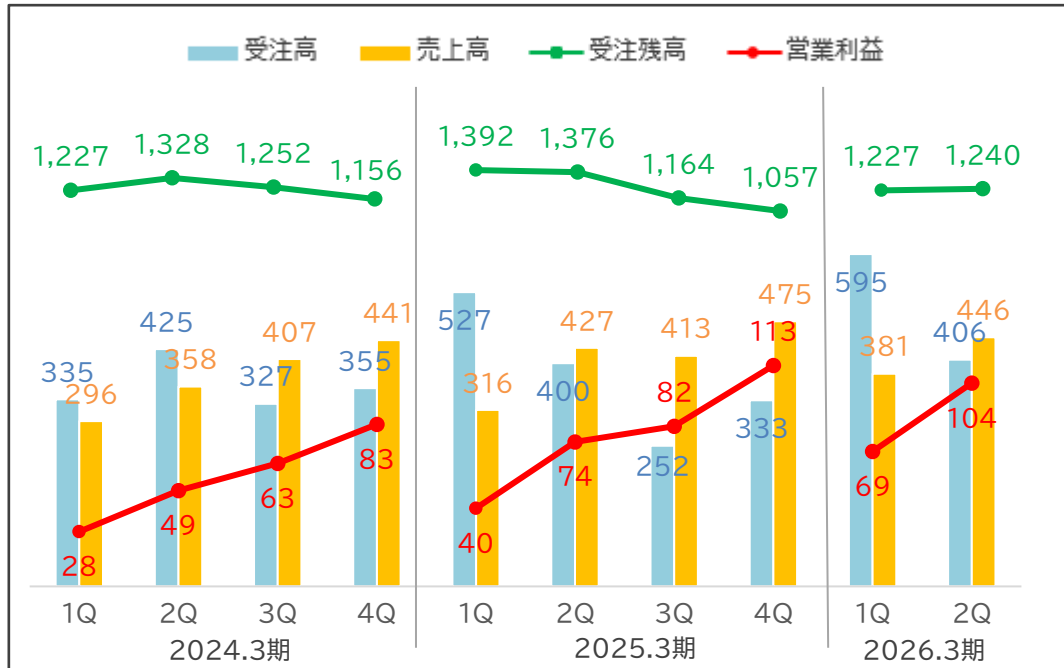
26.3期 通期見込：セグメント別の業績

(単位：百万円)		25.3期 通期実績	26.3期 前期見込 (2025.8.4)	通期見込	前期比	期初 計画比	前回 見込比
全社	受注高	151,272	180,000	185,000	33,728 22.3%	5,000 2.8%	5,000 2.8%
	売上高	163,269	175,000	175,000	11,731 7.2%	- -	- -
	営業利益	31,120	31,500	36,000	4,880 15.7%	4,500 14.3%	2,000 5.9%
	%	19.1%	18.0%	20.6%	1.5pt	2.6pt	1.2pt
水 工 シ	受注高	126,327	154,200	159,200	32,873 26.0%	5,000 3.2%	5,000 3.2%
	売上高	138,130	149,200	149,200	11,070 8.0%	- -	- -
	営業利益	27,382	27,630	32,130	4,748 17.3%	4,500 16.3%	2,000 6.6%
	%	19.8%	18.5%	21.5%	1.7pt	3.0pt	1.3pt
機 能 商 品	受注高	24,944	25,800	25,800	856 3.4%	- -	- -
	売上高	25,139	25,800	25,800	661 2.6%	- -	- -
	営業利益	3,738	3,870	3,870	132 3.5%	- -	- -
	%	14.9%	15.0%	15.0%	0.1pt	-	-

26.3期 通期見込：業績・見込の推移（四半期・年間）

(単位：億円)

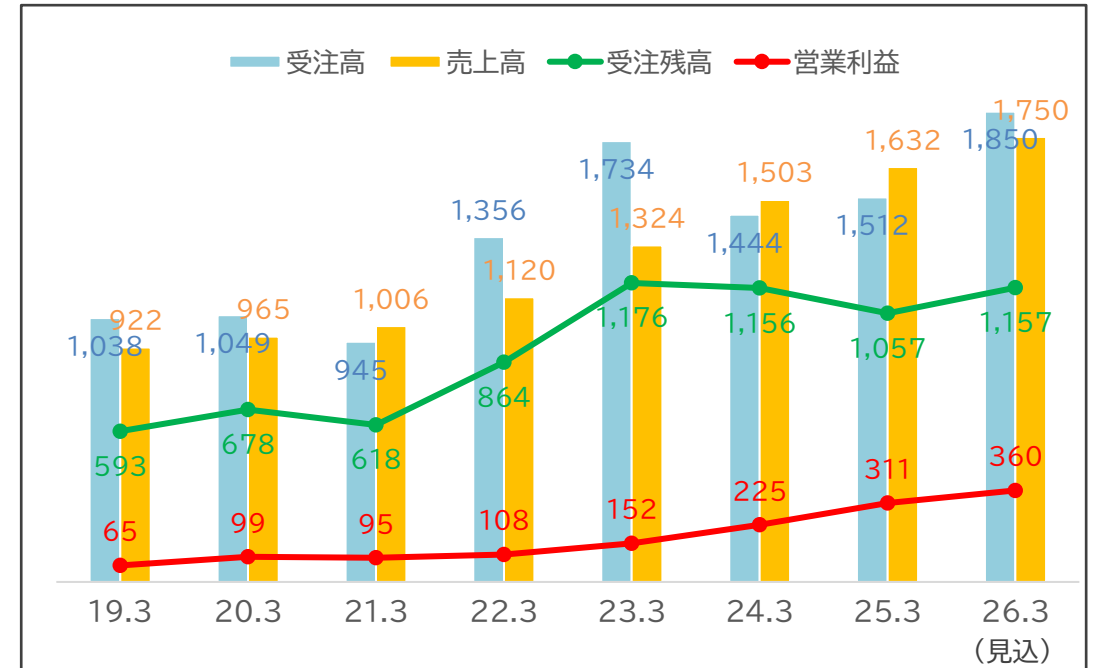
四半期間業績の推移



【四半期業績の推移】

受注高は大型プロジェクトの発注時期に影響。売上高は工事の進捗に応じて計上されるが、期末納期の案件も多く、3月末に向かって緩やかに増加する傾向。営業利益はプロジェクトの予想原価修正や仕様変更・追加工事などに伴う追加金の交渉状況等によって左右されるが、期末に向かって増加する傾向。

年間業績の推移



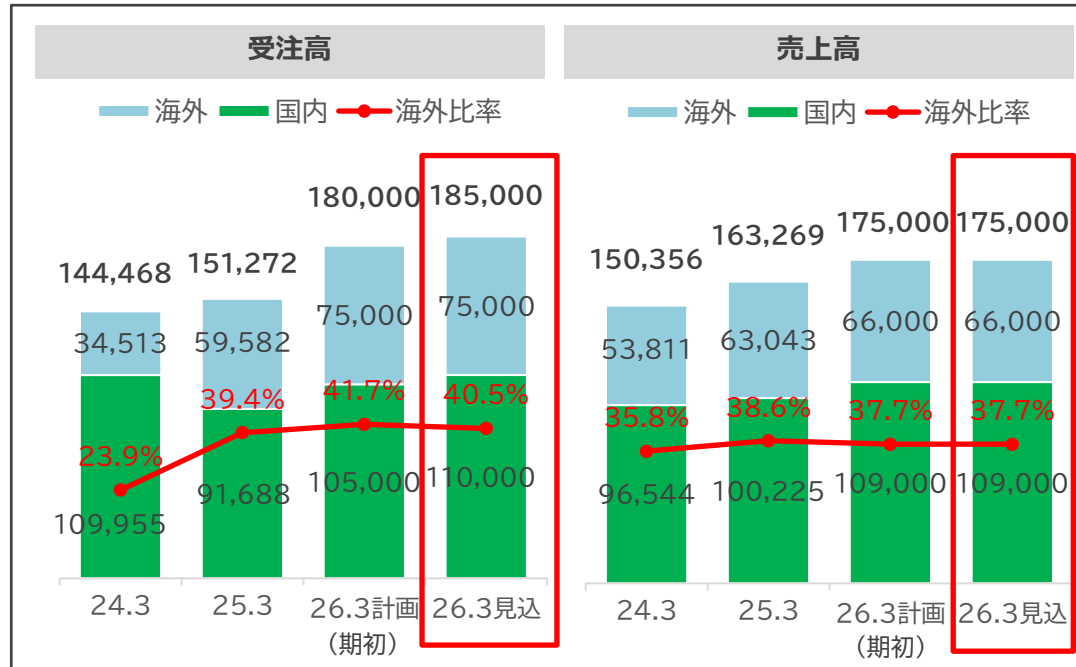
【年間業績の推移】

台湾や中国に続き欧州・米国における半導体投資も活発化、プロジェクト一件当たりの投資金額も拡大しており、受注残高も高水準続く。良好な受注環境に加え、原材料や工事価格の上昇による受注価格の引き上げや、新たなプラント案件の納入によるソリューションや機能商品の売上拡大も採算性改善を後押し。

26.3期 通期見込：地域別受注高・売上高

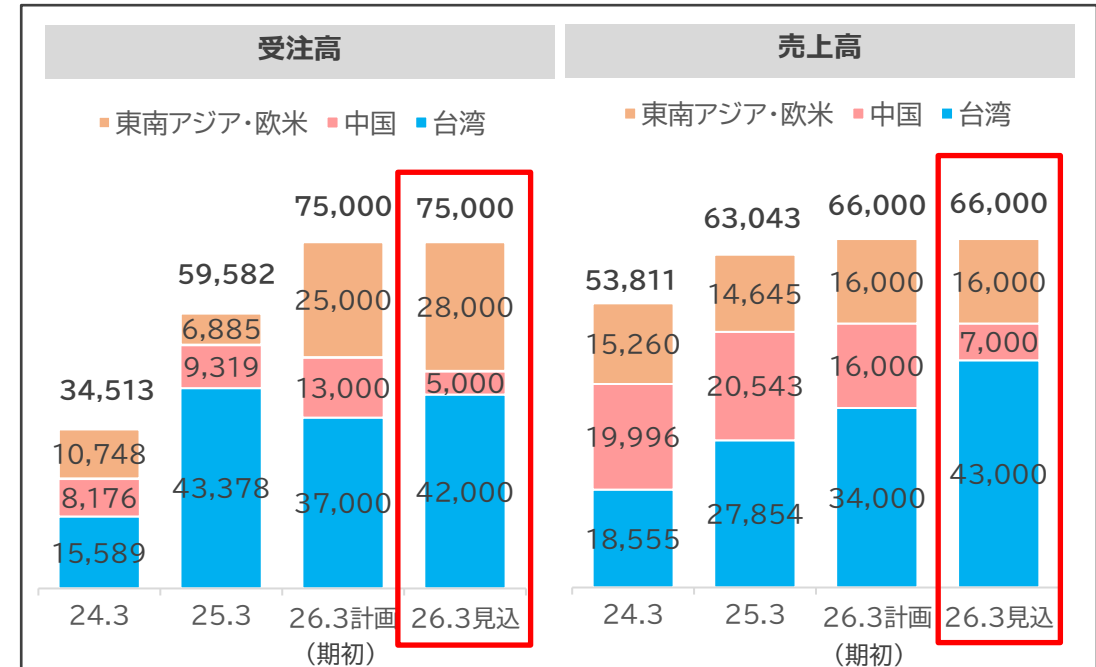
(単位：百万円)

地域別受注高・売上高



- 受注高は台湾・欧米など海外の大型案件受注による拡大を想定。国内は下期に大型案件の受注を予定、ソリューションや機能商品も堅調な推移を見込む。
- 売上高は大型案件受注によるプラントの増加やソリューション・機能商品の拡大など期初計画並の伸長を想定。

海外地域別受注高・売上高

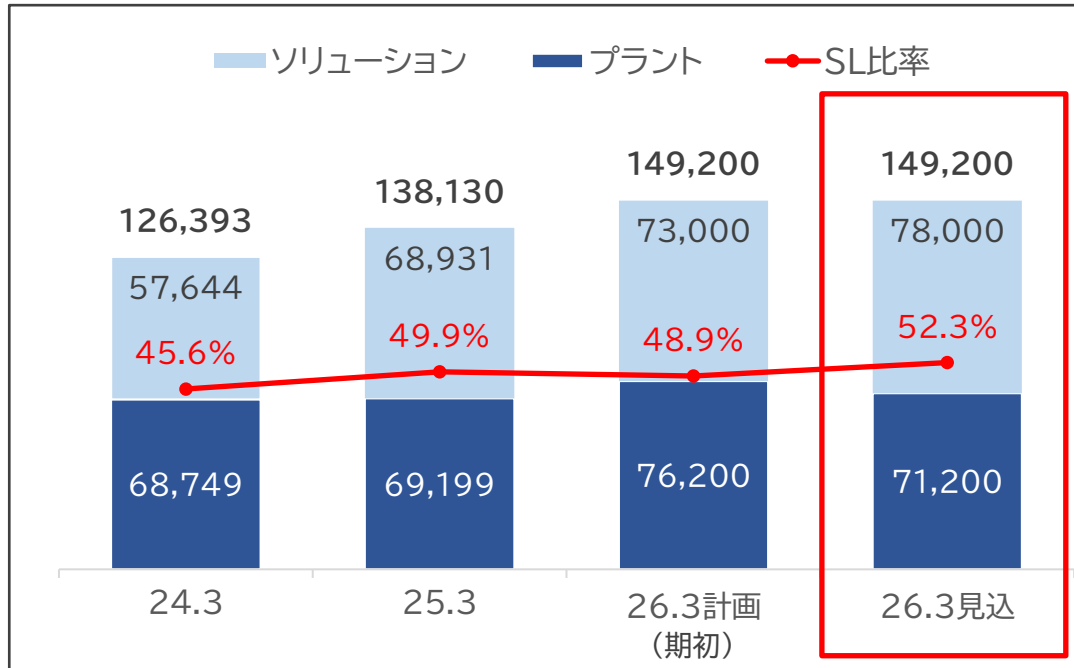


- 受注高は台湾・米国において期初想定を上回る案件受注を見込む。中国は投資計画の遅れが影響、受注減を見込む。
- 売上高は好調な受注を背景に台湾が期初計画比で伸長する見通し。中国は案件の受注遅れが売上にも影響。

26.3期 通期見込：事業セグメント別・部門別売上高

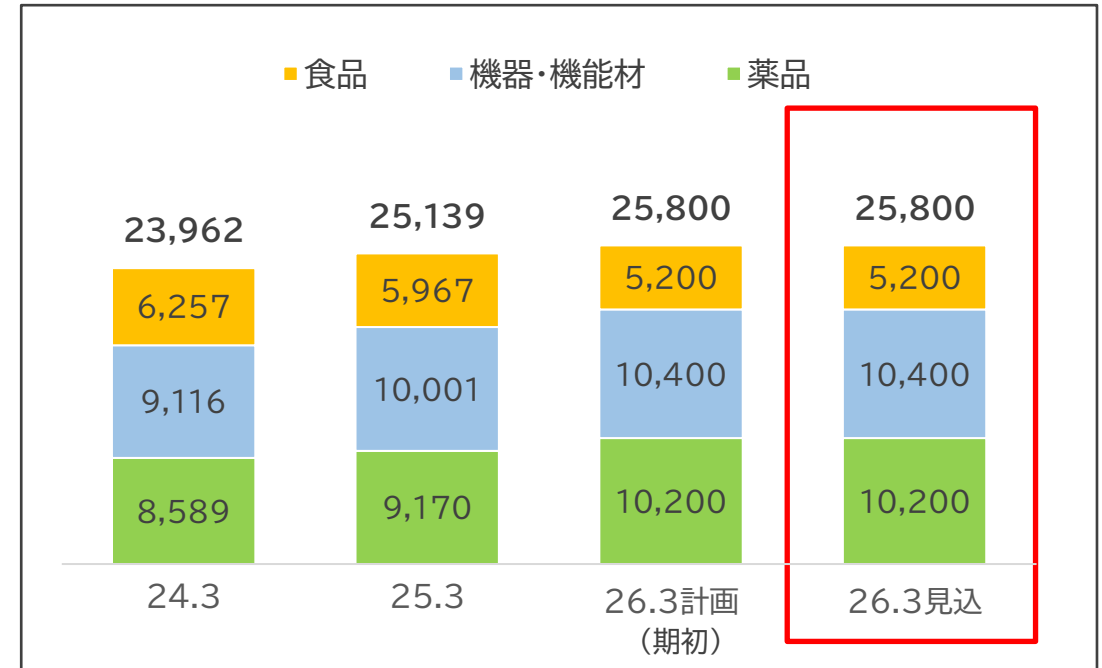
(単位：百万円)

水エンジ事業：部門別売上高



- プラントは海外の大型半導体プロジェクトを中心に前期比では拡大も、中国の受注遅れなど影響し計画比では減少を想定。
- ソリューションは設備保有型サービスの伸長に加え、納入設備の拡大を背景にメンテナンスや改造案件などが拡大する見通し。

機能商品事業：部門別売上高

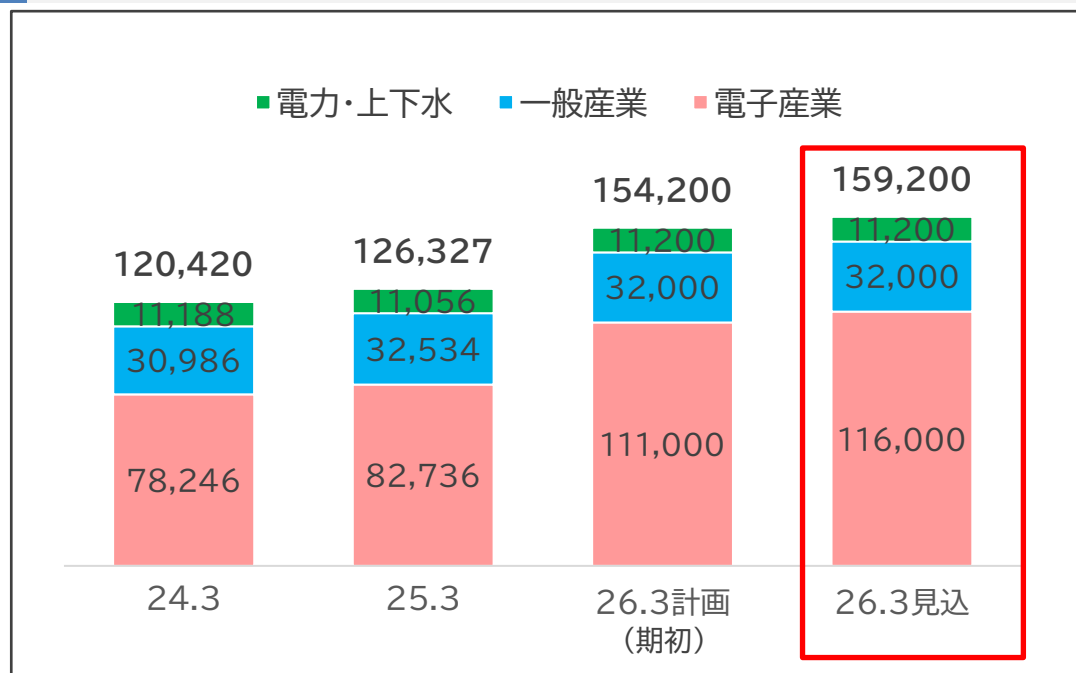


- 電子産業分野向けの水処理薬品や、電子材料の高度分離・精製向けの機能材、小型の純水装置などの伸長を想定。食品分野は低採算取引の整理で売上減を見込むが収益性の改善には貢献。

26.3期 通期見込：市場別受注高・売上高（水エengi事業）

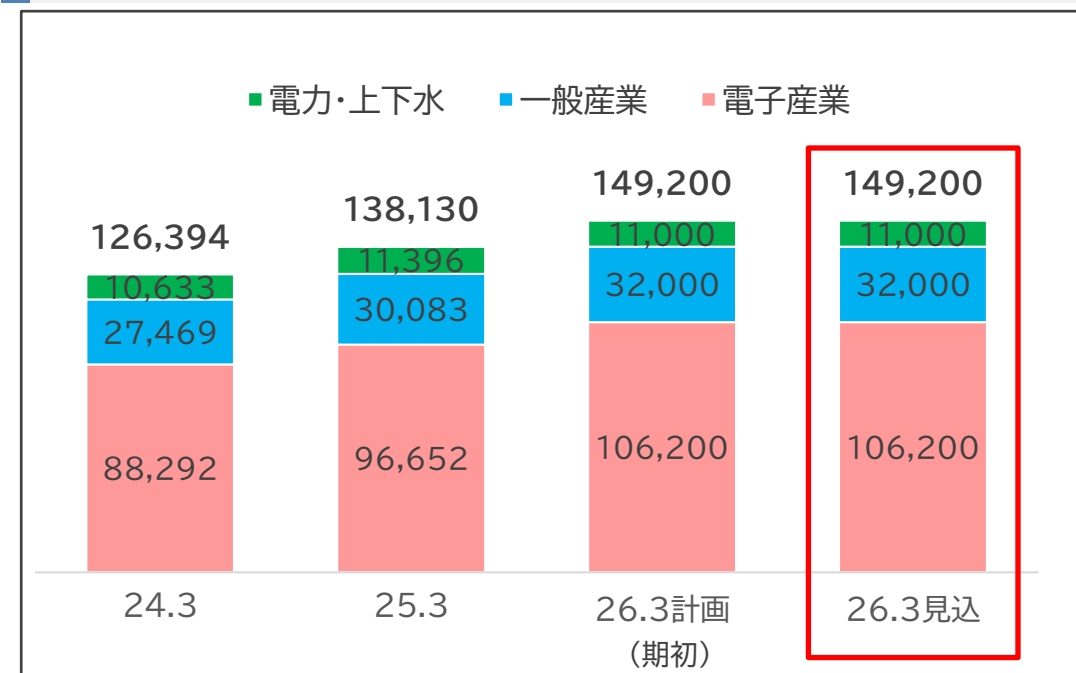
（単位：百万円）

市場別受注高（水エengi事業）



- 電子産業分野では、台湾や米国・欧州など海外での大型半導体プロジェクトを受注、ソリューションも好調に推移。
- 一般産業分野は医薬・電子周辺分野など中心に堅調。電力・上下水分野は原発関連のメンテなどが順調に推移。

市場別売上高（水エengi事業）

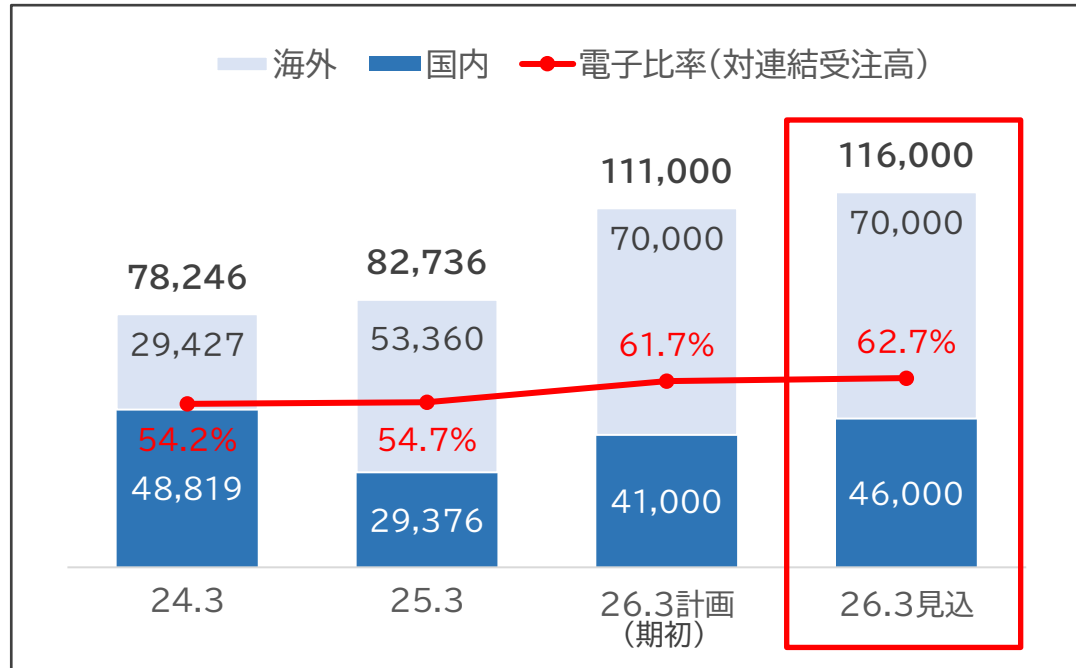


- 電子産業分野は中国での案件受注遅れが影響も、その他地域での受注増や好調なソリューションでカバーできる見込み。
- 一般産業分野、電力・上下水分野はソリューションなどを中心に期初計画並の推移を想定。

26.3期 通期見込：電子産業分野 受注高・売上高

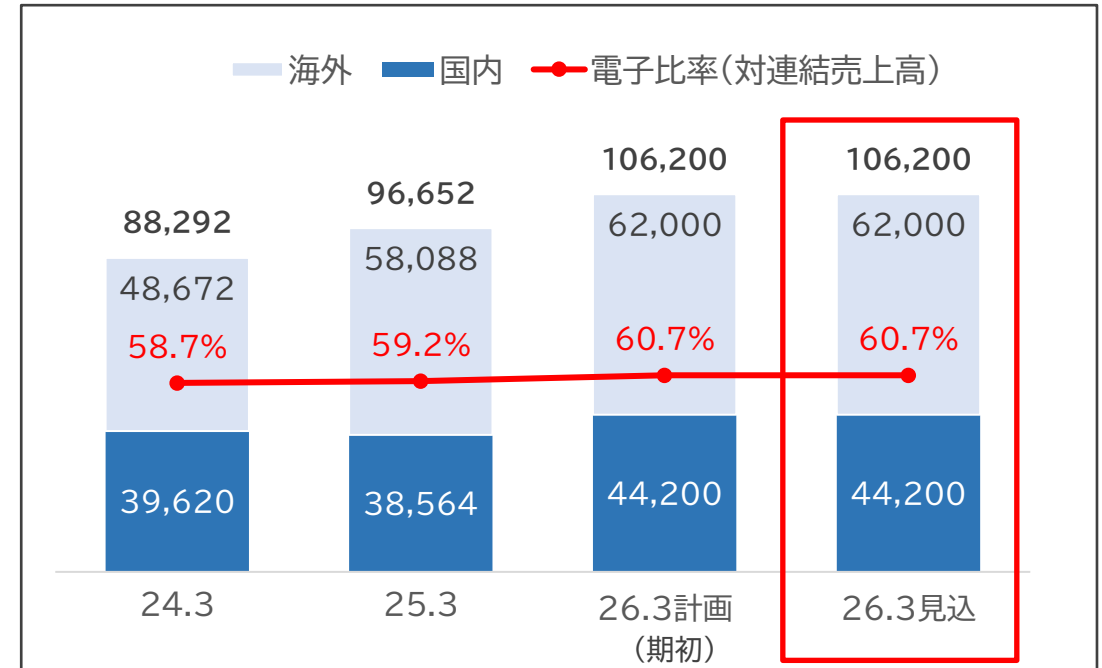
(単位：百万円)

電子産業分野：地域別受注高



- 海外は中国での受注遅れが影響も、欧米や台湾など大型の半導体プロジェクトが好調に推移。
- 国内はソリューションなどが順調に推移していることに加え、下期に半導体の大型案件受注を予定。

電子産業分野：地域別売上高

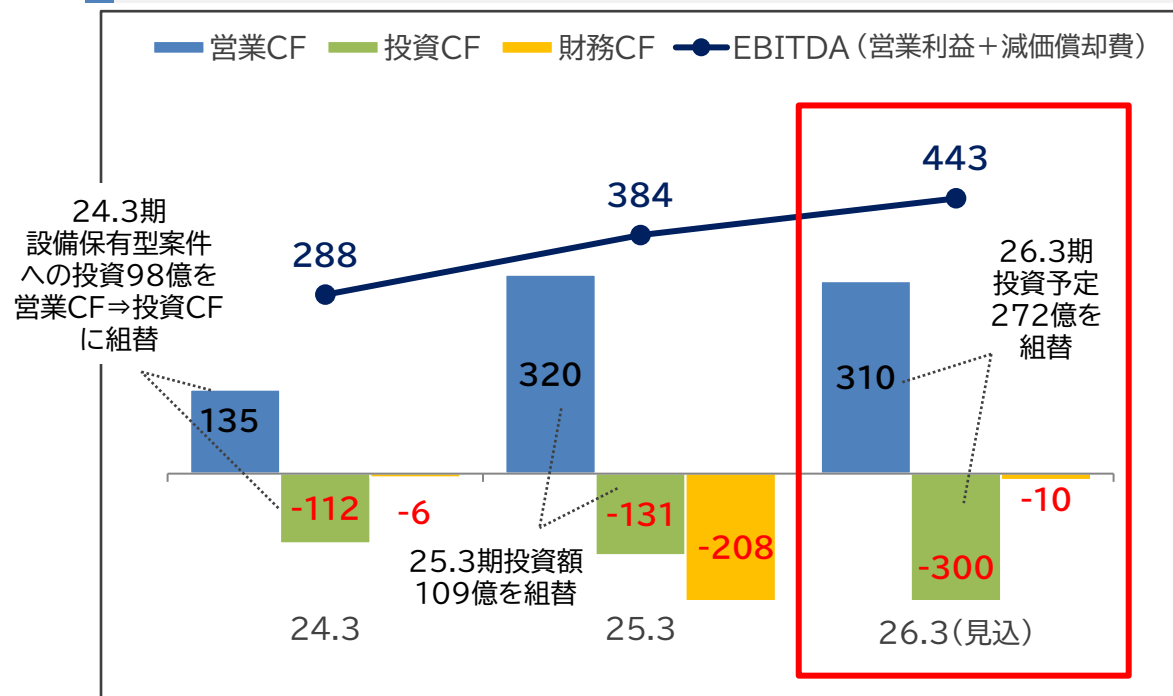


- 海外は中国で案件受注の遅れが影響も、台湾・欧米で受注案件の工事が順調進捗、期初計画並を見込む。
- 国内はプラント案件の工事進捗に加え、ソリューションも好調に推移しており、期初計画を達成する見込み。

26.3期 通期見込：キャッシュ・フローの動向

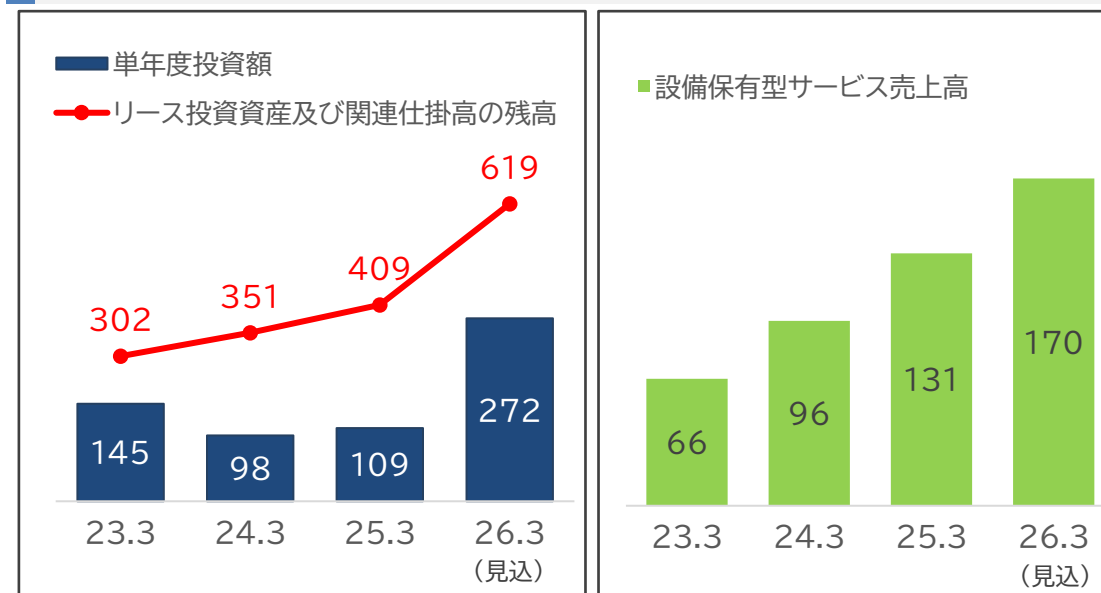
(単位：億円)

キャッシュ・フロー組替後の推移



- 当社のキャッシュ・フローは業績動向に加え、大型案件の工事進捗や代金の回収状況が増減に大きく影響
- 26.3期は前期までに売上計上した案件の代金回収により営業CFが改善。設備保有型投資も拡大進める

設備保有型サービスへの投資動向



- 設備保有型サービスの売上は順調に拡大。投資に当たってはROICやIRR等用いて収益性を評価。一定以上の収益性を確保
- 設備保有型への投資額は「リース投資資産」（建設中は仕掛品）に計上、契約期間に応じて減価償却。流動資産に含まれるため、CF計算書では投資額を営業CFとして計上。左記のグラフでは設備保有型への投資額を投資CFに組替

26.3期 通期見込：主な指標

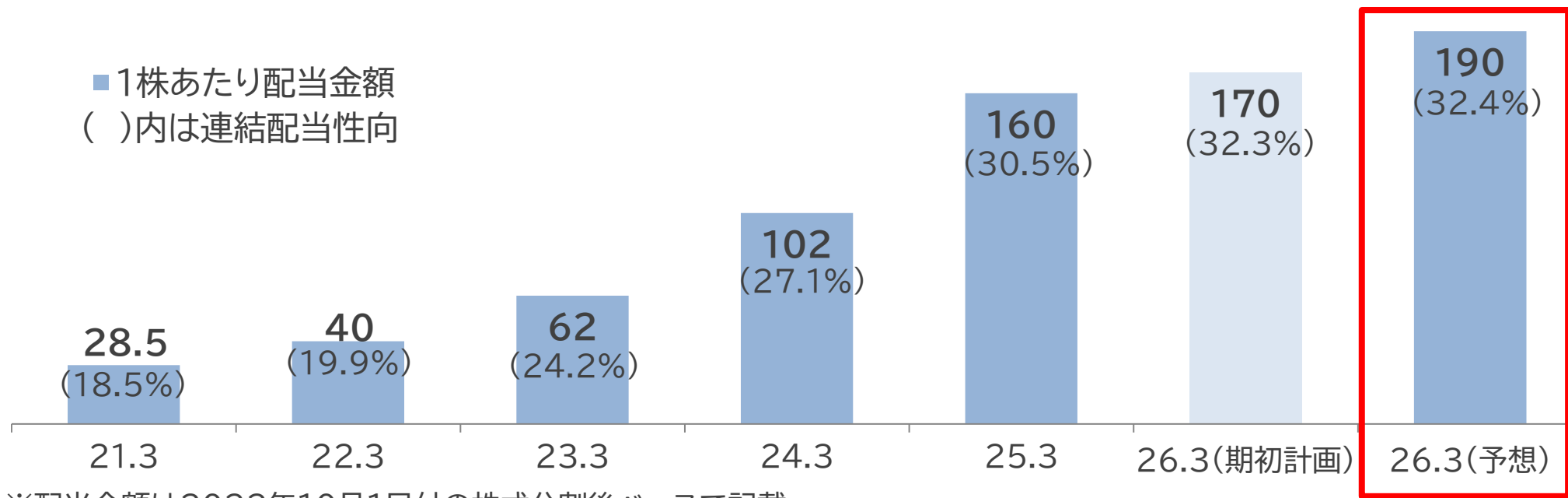
(単位：百万円)	25.3期	26.3期	
	通期実績	期初計画	見込
設備投資額	2,803	3,500	3,500
技術研究費	3,253	3,600	3,600
減価償却費	1,925	2,000	2,000
有利子負債	22,557	35,000	30,000
従業員数（人）	2,660	2,860	2,860

※設備投資額と減価償却費は設備保有型サービスへの投資額・償却費を含まず

配当金の推移

- 2026年3月期は通期業績予想の改善に伴い、配当予想を増額修正
期初計画並の配当性向を維持し、年間配当金予想を190円に増額
- 配当性向30%以上と連続増配の継続を目標とし、株主還元と成長
投資の両立・拡大を目指す

(単位：円)



※配当金額は2022年10月1日付の株式分割後ベースで記載

TOPICS

「オルチェイサーV」 発売



冷却水系で使用する薬剤濃度の自動制御装置「オルチェイサーV」の販売を2025年6月より開始。

薬剤濃度の最適化により**環境負荷の低減と薬剤やメンテにかかるコストの削減**を実現。

オフィスビルや商業施設に加え、**半導体工場やデータセンターなど拡大が期待される分野での展開**を推進。

オルガノにおける水処理薬品事業の展開

当社は排水処理剤やRO膜処理剤など、納入した水処理プラントで使用する薬品の展開に加え、オフィスビルや商業施設、データセンター、各種の工場などの冷却水処理向けに高い殺菌効果を持つ薬剤や自動制御・遠隔監視技術などによるエネルギー使用量の削減など「省エネソリューション」を提供。

インデックスへの組み入れ



JPXプライム150指数

2025年8月に「JPXプライム150指数」の構成銘柄として初選定。資本収益性と市場評価の二つの観点から「価値創造が推定される我が国を代表する企業」の位置付けで選定



JPX-NIKKEI 400

JPX日経インデックス400

2025年8月に「JPX日経インデックス400」の構成銘柄として3年連続で選定。グローバルな投資基準に求められる要件を満たした「投資家にとって投資魅力の高い会社」として期待

2024 CONSTITUENT MSCI日本株
ESGセレクト・リーダーズ指数



その他、ESG評価や炭素に関連する環境指標や情報開示等を重視するインデックスなどにも採用進む

目 次

1. 2026年3月期 上期実績
2. 2026年3月期 通期見込
3. 当社の概要・事業のご紹介

※資料中の数値は表示単位以下切り捨て、パーセンテージ及び前期・計画比較等は表示単位で計算。またパーセンテージは小数点第二位を四捨五入

会社概要：経営理念とビジョン

■ 経営理念

オルガノは、水で培った先端技術を駆使して
未来をつくる産業と社会基盤の発展に貢献するパートナー企業としてあり続けます

■ 長期経営ビジョン

付加価値の高い分離精製・分析・製造技術を基に事業領域と展開地域を拡大し、
産業と社会の価値創造と課題解決を推進する製品・サービスを絶えず提供します

昨日までのやり方を、明日に向けて、今日変える人をつくり、
一人ひとりが働きがいと活力に満ちた企業を構築します

■ サステナビリティ方針

わたしたちオルガノは、ステークホルダーとともに、
未来に向けて持続可能な社会の実現と企業価値の向上を目指します



E 水で培った最適化技術*で、水環境保全や温暖化防止に
貢献する環境配慮型製品・サービスを提供します

S 人権および多様な価値観・個性を尊重し、従業員ひとり
一人が成長し活躍する職場づくりを推進します

G 全てのステークホルダーとの対話と連携を重視し、
誠実かつ公正な企業活動を遂行します

*水で培った最適化技術には、水処理に関わる分離・精製、分析技術やエンジニアリングにおける技術の追求と、
その組み合わせによって社会のニーズに合致した最適なシステムやサービスを提供するという意味が込められています



代表取締役社長 山田正幸

会社概要：オルガノの歩み（売上高推移）

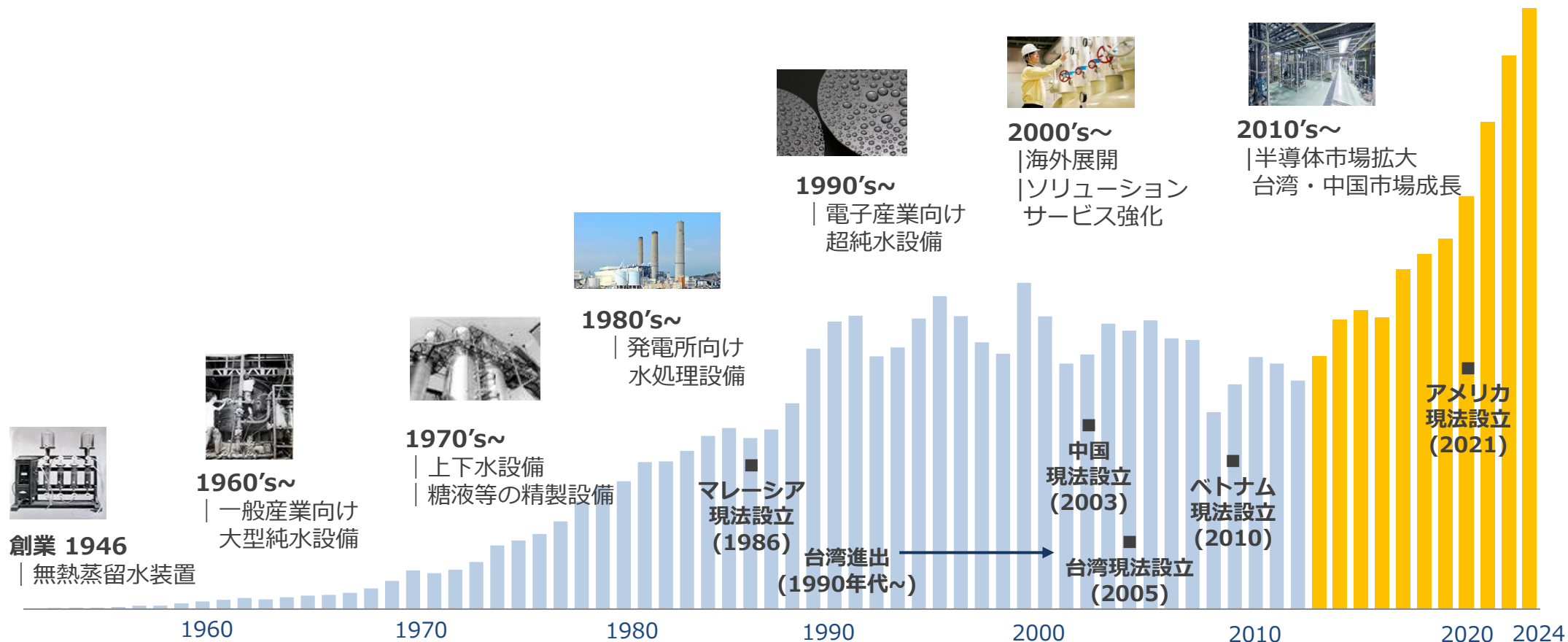
創業期

成長期

成熟期

飛躍期

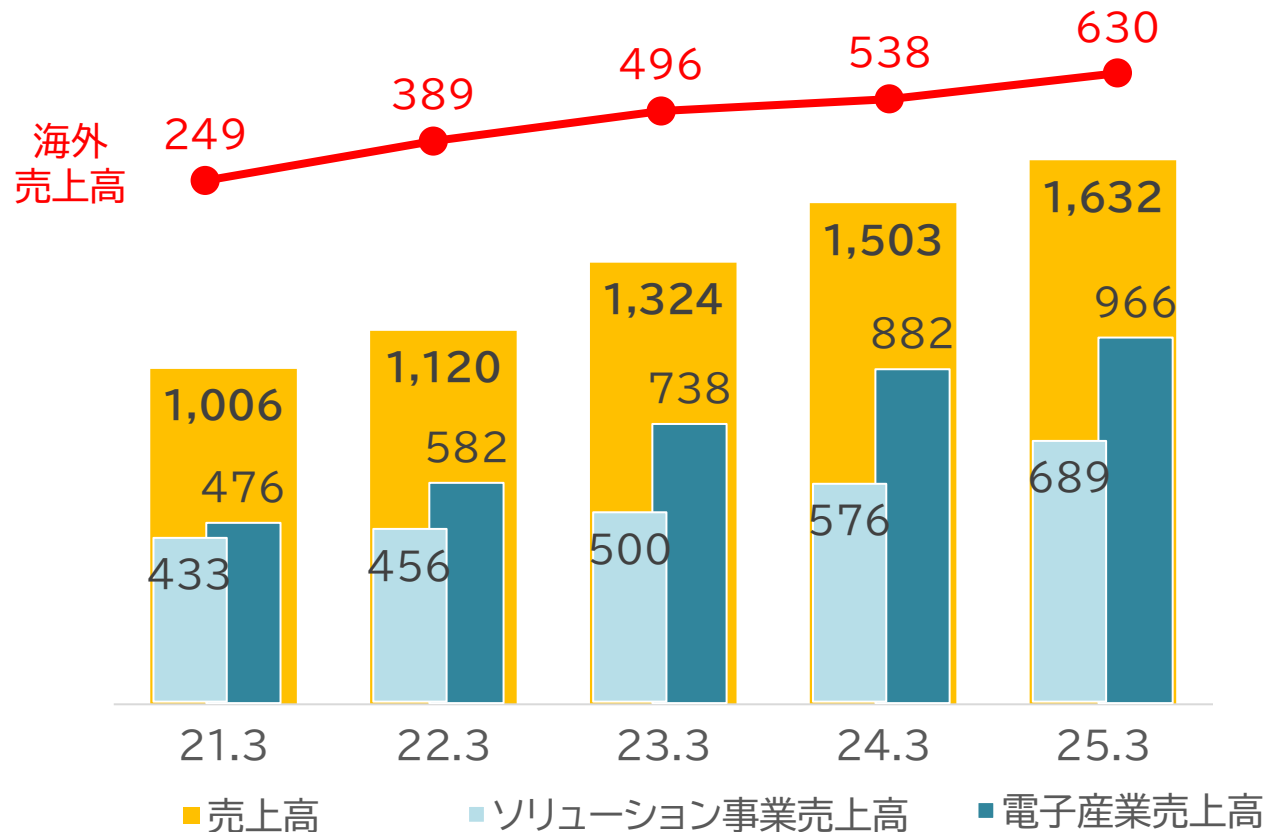
● 売上高の推移



会社概要：直近の業績拡大の背景

業績の推移

(単位：億円)



主要背景

電子産業分野の伸長

2018年以降の半導体市場の伸びを背景に当社業績も伸長。
引き続き国内外の電子産業分野向けを中心とした成長が続くものと期待。

台湾・中国など海外市場の拡大

地域別では台湾・中国市場が大きく成長。
ファウンドリーやメモリなど各種半導体分野の投資が拡大。

ソリューション事業の拡大

メンテナンスの順調な増加や設備保有型案件が拡大。

会社概要：オルガノの事業構成

水処理エンジニアリング事業

| プラント事業



純水・超純水設備
排水処理・回収設備
有価物回収設備
プロセス関連設備

| ソリューション事業



設備メンテナンス
運転管理・包括契約
設備増強・改造工事
水処理加工受託

| 事業別売上高



| 顧客分野別売上高



機能商品事業

| 水処理薬品事業



排水・冷却水・洗浄・
RO膜・ボイラ等処理剤

| 標準型機器・機能材事業



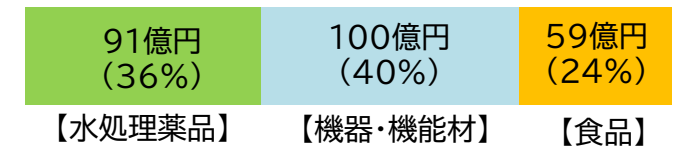
純水・超純水製造装置
フィルタ
機能材（分離精製材）

| 食品事業

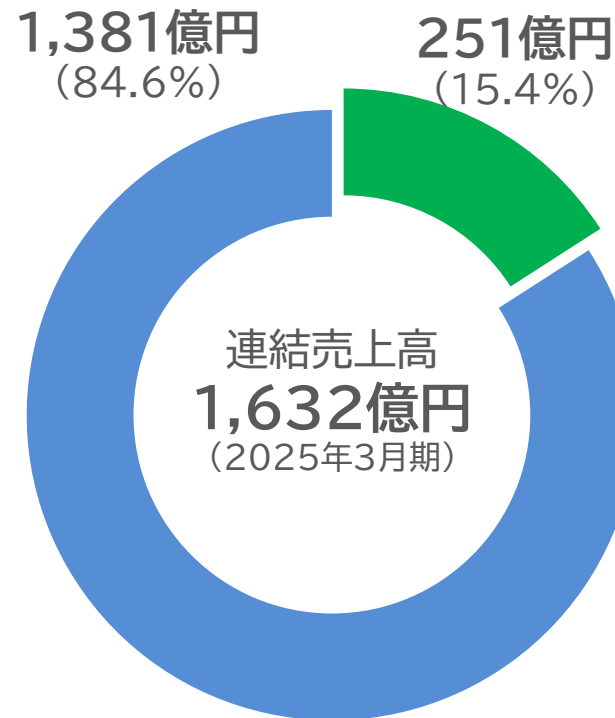


食品添加剂・加工剤
食品素材

| 事業別売上高



※金額は25.3期売上高、%は売上構成比率



会社概要：大株主の状況・株主構成

大株主（上位10名）

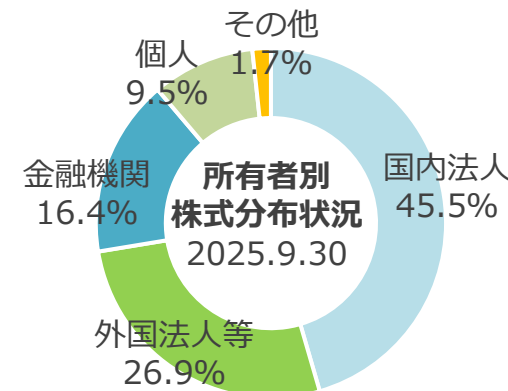
（2025年9月30日現在）

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
東ソー（株）	20,379	44.28
日本マスタートラスト信託銀行（株）（信託口）	4,525	9.83
（株）日本カストディ銀行（信託口）	1,534	3.33
KBC BANK NV – UCITS CLIENTS NON TREATY	1,152	2.50
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140044	686	1.49
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	581	1.26
（株）みずほ銀行	464	1.01
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103	440	0.96
STATE STREET BANK WEST CLIENT - TREATY 505234	370	0.80
JP MORGAN CHASE BANK 385781	368	0.80

※持株比率は自己株式（339千株）を控除して計算

株主構成

- ・発行可能株式総数 101,568千株
- ・発行済株式総数 46,359千株
（自己株式 339千株を含む）
- ・株主数 9,670名

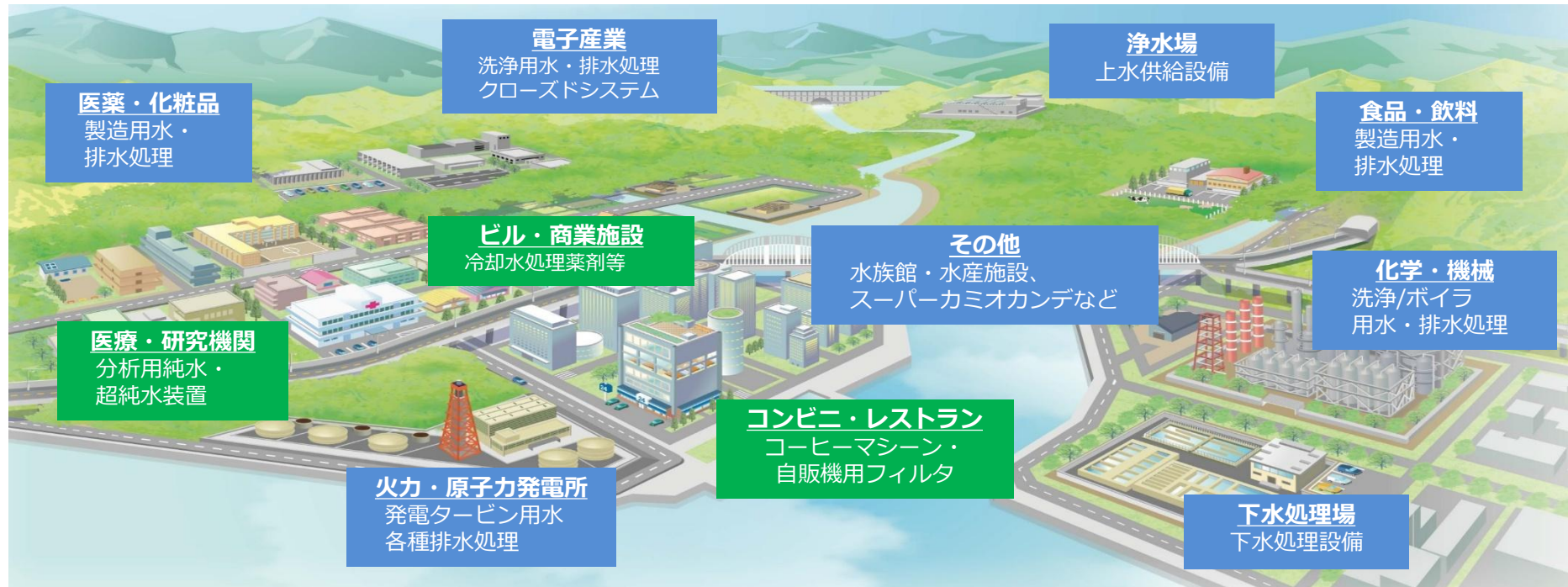


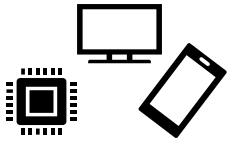
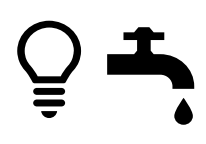
●親会社の状況

当社の親会社である東ソー（株）とは1955年に資本参加を受け入れて以来の関係にあります。当社と東ソーとの営業取引関係については、一部原材料の仕入や水処理設備・薬品等の販売取引がありますが、取引の規模は小さく、両者が扱っている製品や取引先の点でも明確な棲み分けがなされております。

当社は上場会社として事業活動や経営判断において一定の経営の独立性が確保されているものと認識しており、親会社グループと少数株主間の利益相反問題を監視・監督するため、独立社外取締役のみで構成される特別委員会を設置するとともに、2023年6月開催の第78回定時株主総会以降、取締役会に占める独立社外取締役の比率を過半数にしております。

会社概要：生活と産業を支えるオルガノの水処理技術

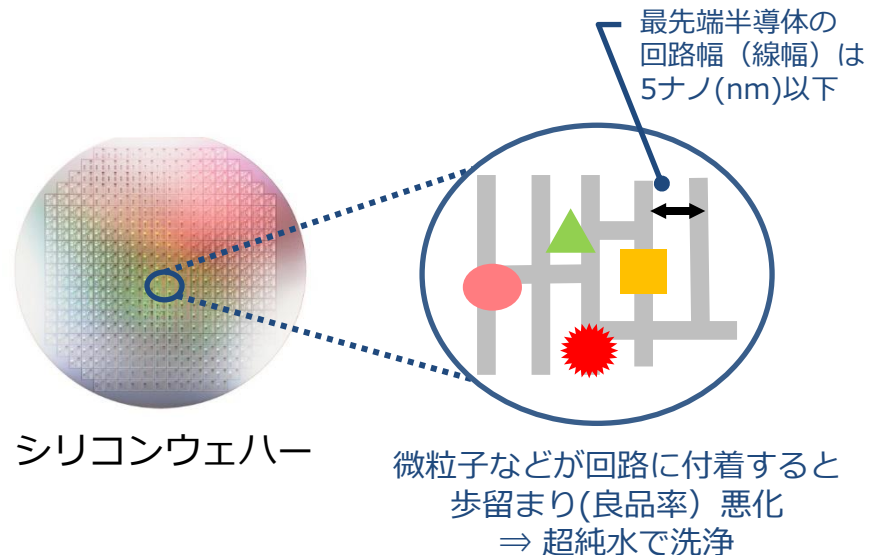


水処理エンジニアリング事業			機能商品事業		
電子産業	一般産業	社会インフラ	水処理薬品	標準機器・機能材	食品
					
半導体・パネル・ 電子部品等	医薬・化粧品、 食品・飲料、 機械・化学等	火力・原子力 発電所、上下水道	各種製造業・ ビル/商業施設	医療・研究機関 コンビニ・レストラン	食品/飲料・ 介護/健康食品

会社概要：半導体と水

多くの工程が必要な半導体製造プロセスのうち、3割程度を洗浄工程が占めると言われています。ウェハーの製造、成膜、エッチング、レジストなどの前後で繰り返し行われる洗浄プロセスに超純水が用いられています

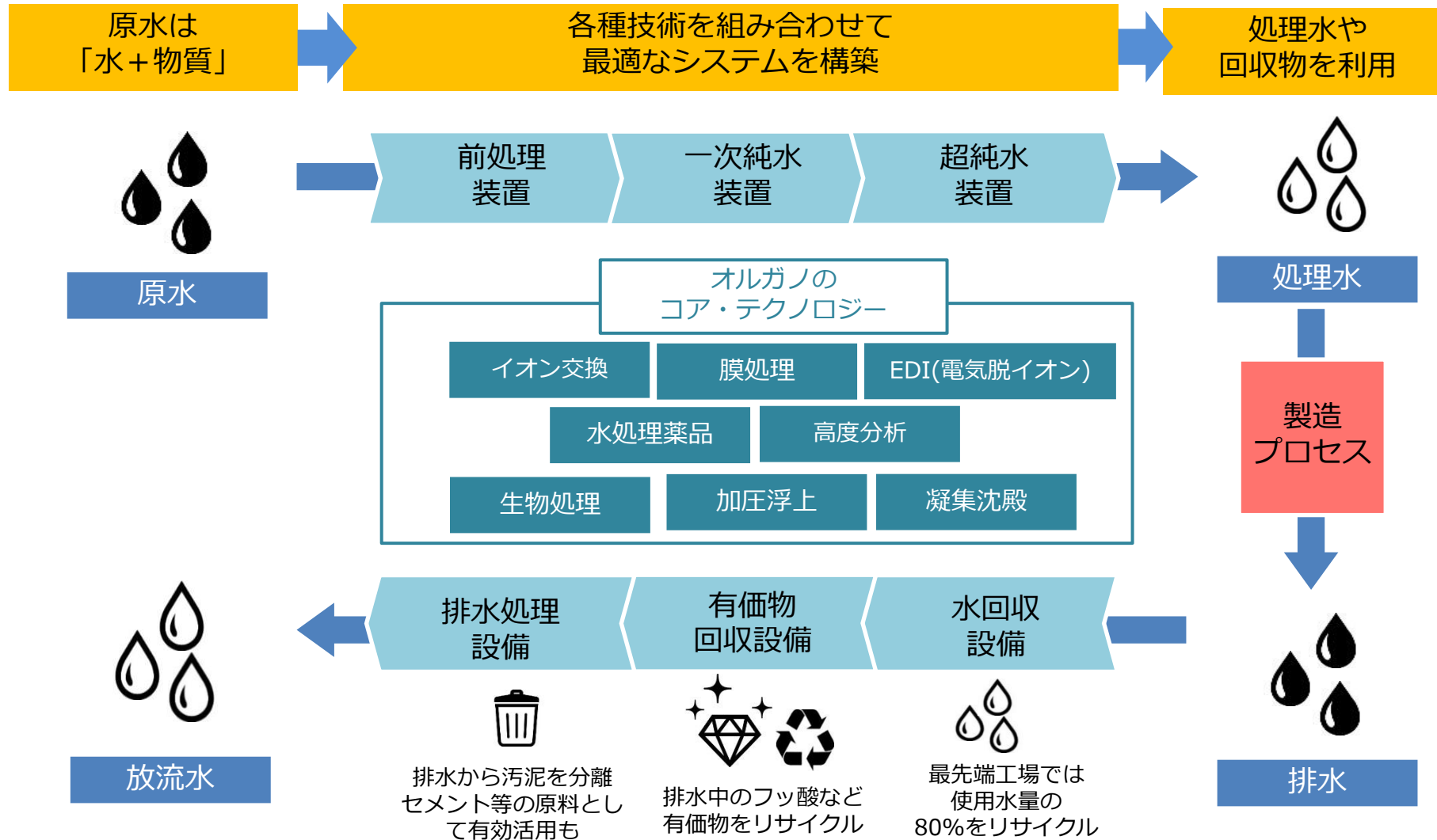
超純水で歩留まり改善に貢献



どこが	どれだけ	すぐれた技術力と価値
不純物濃度	1ppt以下	質量濃度は1兆分の1。オリンピック競泳50mプール(2,500m ³)の超純水に溶け込んだ不純物の量は僅か耳かき1さじ(2.5mg)分
製造水量	1000 Ton/時	大容量の高性能ポンプや大口径配管を使用。オリンピック競泳50mプール(2,500m ³)が2時間半で満杯に
水の回収率	80%	半導体工場では洗浄用水など大量の水を使用するが、最先端の工場では80%以上の水を回収し再利用。水のリサイクルだけでなく、排水中に含まれる有価物を回収する技術も活用

オルガノはウェハーやチップの洗浄に用いられる超純水の供給設備、洗浄や他の製造工程で生じる排水を無害化・廃棄物を低減するための処理設備、水のリサイクルシステム、排水からフッ素・レアメタルなどの有価物を回収・再資源化するシステムなどを提供しています

会社概要：電子産業向け水処理設備



お問い合わせ先

ホームページ

<https://www.organo.co.jp>

お問い合わせフォーム

<https://www.organo.co.jp/contact/>

IRメールニュースのご登録

<https://www.organo.co.jp/ir/mail-news/>

NEW

オルガノグループレポート2025（統合報告書）をリリース致しました

https://www.organo.co.jp/ir/integrated_report/

本資料における業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであるため、リスクや不確実性を含んでおり、実際の業績はこれと異なる可能性があります。